

令和 4 年 2 月

# 細谷恵子 学位論文審査要旨

主 査 藤 原 義 之  
副主査 中 村 廣 繁  
同 梅 北 善 久

## 主論文

Clinical significance of serglycin expression in human breast cancer patients

(ヒト乳癌患者におけるセルグリシン発現の臨床的意義)

(著者：細谷恵子、野坂加苗、坂部友彦、若原誠、大島祐貴、鈴木喜雅、中村廣繁、  
梅北善久)

令和4年 ANTICANCER RESEARCH 42巻 279頁～285頁

## 参考論文

1. Subcellular localization of maspin correlates with histone deacetylase 1  
expression in human breast cancer

(ヒト乳癌においてマスピンの細胞内局在はヒストンデアセチラーゼ1発現と相関する)

(著者：若原誠、坂部友彦、窪内康晃、細谷恵子、廣岡由美、万木洋平、野坂加苗、  
塩見達志、中村廣繁、梅北善久)

平成29年 ANTICANCER RESEARCH 37巻 5071頁～5077頁

2. Response to neoadjuvant chemotherapy for breast cancer judged by PERCIST -  
multicenter study in Japan

(PERCIST判定した乳癌に対する術前化学療法への反応 - 日本での多施設共同研究)

(著者：北島一宏、中谷航也、山口和盛、中條正豊、谷淳至、石橋愛、細谷恵子、  
森田敬裕、木下貴之、甲斐田勇人、三好康雄)

平成30年 European Journal of Nuclear Medicine and Molecular Imaging 45巻  
1661頁～1671頁

## 審査結果の要旨

セルグリシンは代表的な細胞内プロテオグリカンで、癌組織で発現し悪性度を高めることが報告されている。本研究は浸潤性乳管癌348例の組織検体を用い、セルグリシン発現を免疫組織化学にて評価し、予後との関連を検討したものである。悪性度の高いトリプルネガティブ群は、ルミナルA群及びルミナルB（HER2陽性群）と比較しセルグリシンスコアが有意に低かった。不良予後と関連する臨床病理学的因子（高い組織学的グレード、エストロゲン受容体陰性）とセルグリシン低発現との関連性が有意に認められた。リンパ節転移陽性乳癌患者群において、セルグリシン低発現乳癌患者は、無遠隔転移再発生存期間と癌特異生存期間が有意に短く、スコア評価方法を変更しても同じ結果となった。

本論文の内容は、セルグリシン低発現がリンパ節転移陽性乳癌患者の独立した予後不良因子であることを初めて報告したものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。